

第7回 日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会

令和5年(2023年)10月6日(金)13時30分～

日野町役場 防災センター研修室

~~~~~

### ○子ども支援課長

皆さん、こんにちは。第7回日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

それでは、設置要綱に従いまして佐々木委員長から進行をよろしく願いいたします。

~~~~~

○委員長

今日は、昨年、将来を背負う子育て世帯、若い世代の方々とのワークショップを実施しましたので、それらを踏まえ、今日は、副委員長が先に退出されるというお話なので、ワークショップの内容の協議から始めていきます。

こちらですが、皆様に何をお話したいかと申しますと、今の幼稚園・保育園を取り巻く環境を日野の将来に向けて、どういう形にしていくのか、その将来像を考えることを確認させていただきたいのと、もう一つは、専門的な課題として、日野町の先生方や保育者の皆さんが、まずはどういう研修を、今まで「自己研鑽を積みたい」ということがワークショップの結果であがってきましたけれど、どういう研鑽を積んでいくのか。それから、この中でも何度か委員の皆さまからご指摘がありましたが、日野町の中で同じ方向を向いて、皆さんが幼稚園や保育園にかかわってくださるように、先生方向けにそういったことをしていかなければならないのではないかとというご提案がありました。その件に関しては、私ではなくて副委員長が専門家でいらっしゃるの、副委員長にその部分の検討をお願いしたいと思っているのですが、どういうことを考えているかということをお話をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○副委員長

間が開いてしまって記憶が曖昧なのですが、私は今「〇〇〇こども園」の園長もしていますけれど、京都府で幼児保育アドバイザーをしていて、たまたま昨日、舞鶴市へ行きました。

舞鶴市には幼児教育センターというものがあって、地元の幼稚園・保育所などで先生をされていたOB、退職されてからも舞鶴市内の私立の保育園・幼稚園・こども園のアドバイザーですから、指導というよりは悩み事を聞きながら、市として方向性を一本にしていこうということやっておられるところで、私も何年かかかわっていきまして、こんなにもみんなが足並みを揃えて、市全体で保育のことを考えていこうとされておられるのだなと

いうことを昨日もすごく感じてきました。

日野町も先生方はすごく勉強されていますし、保育の取り組みを進めていきたいと思っておられるのはよくわかりますし、私も講師として呼んでいただいたときに、回数を重ねるごとにすごく頑張っておられるということを感じておりますが、園単位ではなくて、日野町として「日野の保育をどうしようか」という話が出たときに、今ここにおられる皆さんは行政的な話も含めての話になっていますけれども、実際、保育をしているのは先生方お一人おひとりなので、ここの熱量と同じ思いで園現場の先生たちも思っておられるのだけど、その共有ができていないと、結局、ここでしゃべったことが園の現場で活かされるかといったら、そうでもないというか、歩調が合わなかったり、進む方向が違ってしまったり意味がないかなという話をさせてもらっていて、園は園でこの話を聞きながら、先生体はこういう保育をしていきたいとか、日野町の子どもたちをこんなふうに育てたいとか、日野のまちをこんなふうにしたいなという思いを語り合って、保育の現場に活かしていけるような組織をつくっていかないといけないかなというお話をしておりました。

まずは、先生たちの生の声を出し合って、愚痴を言う場ではなくて、「だからこうしたいよね」「だから私たちは何ができるかな」「子どもの幸せのために園として何ができるかな」ということを、園という枠を超えて、同じ市町の幼児教育に携わる者として語り合っていくという研修や、そういう組織をつくっていくのではないかなということも話していました。

舞鶴市の取り組みを見て、決してすごい先生が揃っておられるわけではなくて、地元のことをいっぱい知っておられるのはやはりOBさんなので、私はアドバイザーで府から派遣されて助言はできますけど、舞鶴市を知っているのは地元の先生ですから、自分の市町の良さ、それと子どもたちをこんなふうに育てたいという熱い思いがあると、すごく幼児教育は進んでいくと思います。

そして、それが小学校までつながっていているのはすごいなと思います。幼少連携がすごいのです、舞鶴市は。先生たちがもっともっと、今までの教育のやり方でどうだったのかということをもっと思ってください、幼児教育、未就学のところで育ってきて、子どもたちの力を学校の中でどうやって生かしていくか。学校をうまく生かすためではなくて、幼児教育で育ってきた子どもたちの力や生活力を、小学校でどう学びの中でつなげていくかという話もスムーズにしておられると思ったので、それが日野町でおできになるのかどうかわからないのですが、国の補助金が出ますので、補助金を使うということも教えたいし、その辺気をつけて考えていただくとして、私は園現場の先生たちとそういう語り合う場というか、園の先生たちも何か動こうよとか、何かできることをやっていこうという研修をできたらいいなと思ったりします。でも、具体的にどうかというのはわかりません。語り合う場が大事かと思います。

○委員長

ありがとうございます。ワークショップを11回開催させていただきまして、その結果をこのような形で前回まとめさせていただいたわけですが、確かにこれやっていると、違う園の先生も同じことで悩んでいることがわかってホッとしたとか、民間の先生方と交流する機会がなかったの、そういう先生方と交流できて、こんなことを思っておられるんだということがわかってよかったとか、そういう感想もいただきました。

○副委員長

そして、だからどうしていこうかということがないと、変わらないのですよ。何ができるかというきっかけを作っていこうということで、先生たちが参画していくことで保育はすごく変わると思うし、充実していくと思います。

○委員長

副委員長との話し合いの中でそういうご提案をいただいたのですけれども、まずはその内容について、ご質問等あればお願いします。

○委員

舞鶴市は、私立と公立はどういう分配ですか。

○副委員長

私立が多いです。京都自体、公立が少なく、古い歴史の中で熱意を持っておられる。まちの保育を担ってきたという経験や自負を持っていらっしゃるので、そういう私立の重鎮の方とも話をしながら、公立だけが頑張るのではなくて、一緒に頑張ると。

結構、園数が多いと思います。昨日も〇〇〇保育所が会場で研修があったのですが、市内の先生方が来られていて、中には園長先生が来ておられたところもありました。昔の保育と考え方が違うから学んで来いと副園長に言われて来ましたと、園長先生がそういつて来られているのはすごいなと思いながら聞いていました。

やはり行政が乳幼児保育センターは大事だよということで人を雇ってくださっているのは、すごいなと思います。

○委員

どこに重きを置くかということで予算もだいぶ違うだろうし、舞鶴市もリーダーが子育て世代だから、結構、全国でも注目をされているところでもあるかなと思います。

奈義町なども、どこに重きを置くかということがはっきりしているところは、お金と施設というか、それをたぶん感じ取るというのは、なかなか、施設の数や懇話する時間が多くなろうとしている努力を先生方がくみ取ってくださってということはあると思うので、日野も公立と私立をこれからどういうふうな形で保育園をしていくのかということで、わらべ保育園も結構大きな規模なので、そこをどう、行政が主となるのか、誰かが主となってやるのかということは、大きな問題だと思います。

○副委員長

私も京都へ行っていますけど、幼児教育センターというものが別に建っているわけで

はなくて、今、新しく府庁の中に文化庁ができたところで、その隣に第3号館を建築しなおした、その何階かのフロアの1室を使っているだけです。

舞鶴市も、保育所を建てたときの2階の1室を使っておられるから、それだけのために1つ建てるのではなくて、今だったら園舎で余っている部屋があったら、そちらの方がいいのですよ、現場に近いところにアドバイザーがいた方がいい。行政側に行ってしまったらだめで、どちらかと言ったら、園現場の空き室の1つを乳幼児保育センターみたいな形で、看板をあげて、いつでもすぐに現場に行けるということが一番よいと思います。

○委員長

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

○委員

先ほどOBの方がと言われましたけれども、そのOBの方々がどのような立ち位置で、どのような形で現場の人とかかわりというか、どういうポジションでかかわっておられるのか気になります。

○副委員長

私もアドバイザーで、非常勤で会計年度任用職員として雇われている身ですが、園を訪問して、まず悩みを聞いたり、保育の研究会にかかわったり、本当に無償で園に行き保育の指導をしたり、環境の作り方を一緒に考えたりという仕事をしています。

舞鶴市の場合は、センター長は園長級の方が1人、正職員でおられますけれども、あとは私のような臨時職員で、会計年度任用職員で、時給いくらで、週3日とか、そういう形で務めておられる方が何人もおられます。たくさんおられる方が、いろいろな先生のアドバイスももらえるから、いいのかなと思います。

日野にもたくさん、園長先生でお辞めになられた方がいらっしゃるだろうし、日野だけでなく近隣の先生だったらいいのかなと思うのですが、公立出身だけではなくて私立出身の園長先生もアドバイザーに入っておられます。だから、立場がいろいろな先生がいた方がいいかと思います。アドバイザーだけで研修もします。園の相談役みたいなものです。

○委員

そこに民間の方はおられますか、アドバイザーで。

○委員

います。いますし、私も私立の保育所に呼ばれて行ったりします。

○委員

全く保育園とか幼稚園に携わっていない人はおられませんか。

○委員

ないですね。幼稚園教育・保育の専門職できた人たちが自分のキャリアの中で培ってきたことと、アドバイザーだからしっかりと勉強しないといけないので、勉強はしています。

○委員長

ほか、いかがでしょうか。よろしいですか。

もし、ご異論がなければ、研修の部分については副委員長にご検討いただいて、私の検討している部分と合わせるという作業をこれから進めていきたいのですけれども、よろしいでしょうか。ご異論ございませんでしょうか。

では、検討を進めさせていただいて、次にこの件について副委員長からご説明いただいて、皆さんで審議していきたいと思っております。よろしく申し上げます。ありがとうございました。

~~~~~

## ○委員長

それでは、次第に戻りまして、「2. 今後の進め方について 対象別ワークショップの実施」についてご説明させていただきます。

皆さんのお手元の資料で、今年度のスケジュールはこのような形で内定しております。前回の地域別というのはあるのだけれども、日野の将来を考えたときに、もっと若年層や子育て層が参加できる機会を設けるべきだという話をいただいておりました。保育所は別途考えないといけないのですけれども、公民館はこれでスケジュールが確定しているので、昨年でいうと、保護者の方向け、それぞれの園に通っている方々向けのものを、それぞれ園でやったものがあるのと、それから、不登校の方など向けにやったもの、このあたりが相当するのですけれども、必ず拡大する形でやりたいとは思っているのですけれども、ワークショップという形でやるのもありですし、以前話題になりましたシンポジウムみたいな形を一番最後にやるのも手だと思います。ただ、こういった形が参加しやすいのか、私の方では手探りなところがありますので、このあと説明が終わったときにまた1周してご意見を聞いていきますので、その時にアイデアがあったらお話ししたいと思っております。よろしく申し上げます。

~~~~~

○委員長

では、次第の3番に移らせていただきます。「3. ワークショップに向けた内容について」ということで、実際に公民館でどんな流れで話をするのかというこれまで沢山議論してきた中で、この懇話会で一番初めに出しました「今、日野町の置かれている課題はこんなところですよ」ということを私が列記させていただいたものですが、研修とかいろいろ深めて、これを少子化についてしっかり取り組んでいかなければいけないなどというところはいろいろ視察した結果でも思ったことですので、なぜ、日野町の少子化が問題なのかということのスライドで説明していきます。

前に私が書いていたのは、仕事と就業先、子どもの人数が要るということは、通勤できる範囲に仕事や就業先があるからで、日野であれば新幹線通勤しているような人はいないだろうから、ある程度の距離でなければ、幼稚園・保育園がそもそも成り立つだけの子

どもの人数がいませんよという話をしたのですけれども、昨年のワークショップを踏まえてわかったことというのは、日野町に住もうと思っても、地域によっては家が新築できないので、どうしても日野地区に集まってきてしまうということもあるし、近隣に家を構えている方もおられます。そうすると、転入可能かどうかということを考えていかないと、そもそも若い層が住めないのだったら子どもが増えようがないので、住居というところを踏まえて幼稚園・保育園が成り立っていくためには、要素を追加しなければならないと思って、「住居」を追加させていただきました。

そのうえで、公民館ワークで「Uターン」ということ、なぜUターンから入っているかという、Uターンがダメだったら、「Iターン」も「Jターン」も考えられないと思ったからです。

Iターンというのは、私みたいに都市圏で生まれ育って、縁もゆかりもないようなところに行くパターンです。私は東京都〇〇区出身で、県立大学に進学するために滋賀県にやってきた人間ですが、そういうパターンがIターンです。

Jターンというのは、別のところで生まれ育って、1回都市圏に行くのだけれど、生まれ育ったところとは別のところに住んでおられることです。

いずれにしろ、全くその土地にゆかりのない、IもJもよそ者という形になっているので、当然、Uターンよりハードルが上がります。ですから、まずはUターンが入れなかったら、JもIもあり得ないということで、まずUターンの話から入っています。

公民館ワークで実際昨年出た意見としては、実家周辺に用途地域制限で家が建てられないと。それから、これは衝撃だったのですけれども、子どもが実家周辺に家を建てようと思っても、親が帰ってくるなどというパターンが、単一の集落ではなく複数の集落で聞きました。自分たちの住んでいる場所をよく言わない。「こんな田舎に住んでどうするねん」「もっと便利なところに住めよ」というようなことを親の層が言っている。それから、「役」などの負担がかなり重い、場所によっては「自治会」の負担もかなり重いという話が出ておりました。

それを踏まえて、そもそも子どもたちに帰ってきたいというようなよい思いをさせてきたかどうか、私が指摘したのではなくて、ワークショップの中で出てきたご意見です。そもそもこのあたりが変わっていかないと、転入の前提条件が崩れているという話があります。

保護者ワークの中に出てきたこともあります。「子連れ利用」というのは公共施設とか商業施設が多くて、実際にあまり地域で遊ばせていない人が多いということです。もちろん地域の神社とか自然をふんだんに活用して子育てされている人もいらっしゃるのですけれども、保護者向けワークを見ると、良いとか悪いとかいう話ではないですが、公共施設・商業施設はものすごく強いです。

「自然」を魅力としてあげる日野町民はものすごく多いのですけれども、なかなか、子連れでの利用というのはそこまでの数字は出てきていないです。

じゃあ、先進地はどう取り組んでいるかという話で、ここから先は前回と話が重複するので細かくは言いませんが、1つは奈義町の話をしようと思います。

奈義町は、現在の人口を維持するというのが目標です。このままいくと、2060年には人口が半分近くに減ってしまうということがありますし、高齢化もあるので、人口を維持することを目標とされています。出生数 2.03 を維持しても減り続け、仮に出生数が 2.3 になっても維持できない。だからこそ、社会動態（転入・転出のプラスマイナス）をゼロにすると。日野の推計値はひたすら右下がりですが、奈義町はそういうふうなテーマを決めてやっておられます。

新潟県出雲崎町の場合は、死亡者数が出生者数の約5倍近く、これはどこの市町も似たような傾向があるのですけれども、10年前に比べて自然動態（出生・死亡のプラスマイナス）は横ばいの自然減100人前後で、毎年人口減少が続いています。

日野町の場合は、20年前はある程度、死亡者数と出生者数が拮抗していたのですが、近年、出生者数が減ることによってマイナスになっています。

社会動態に関しては、「出雲崎に住んでもらおう」という施策を展開することによって、結果的に子どもが増えているという状態になっています。

比較すると、私も少子化の話は確かに昨年のワークショップでも言っていたのですが、これは私自身の反省でもあるのですが、この2つのまちと日野町の大きな違いは何かといたら、少子化に取り組まないといけないという市町村は日本全国に山ほどあります。むしろ言っていないところはないと言ってもいいくらいです。ただ、どこに取り組むのかということがすごく明確だなということを感じました。奈義町であれば出生を増やしていく。出雲崎町は社会動態で転入を増やすことによって、結果として出生者増を狙う。社会動態で奈義町は均衡、出雲崎町は転入を増やすと。どこに着目するかということをやっていないと、少子化対策をやらなければいけないとみんな思っているけど、何が重点なのか見えてないと思います。

日野町における課題というのは、まずはUターンの可能性がある人をどうするのかということを考えていかないと、現状は、集落の人が自らUターンを受けないように仕向けているところがありますので、それを考えてみませんかというのが私の1つ目の提案です。

なぜ公民館ワークでこれを聞くのかというと、Uターンを受け入れるのだけが目的ではなく、それは集落によって選択があつていいと思うのです。このままでいいとおっしゃるのだったら、それを否定するものではないです。でも、うちの集落はもっとUターンの人に来てほしいし、IとかJの方にももっと来てほしいと判断されるかも知れません。それはそれぞれの住民さんがお考えになることであつて、決して押しつける話ではないと思っているので、皆さんどう思われますかと。受け入れるということは、今までやっていたことと違うこととしないといけない。役を減らすとか、少なくとも、子どもに対してこんなところに帰ってくるなと言わないようにとか、あと、行政的なことと言えば、用途規

制を変えてもらう必要があると思うので、結構大きな覚悟が地域にとって必要になってくると思います。それを変えないということは決して悪ではないと思うのですが、ただ、判断は要ると思うので、ぜひこれを1つの論点として公民館ワークで聞きたいと思っています。

2つ目です。これか前回ここで議論させていただいた宿題の答えを入れてあるのですが、課題をもう少し深堀すると、昨年はざっくり、保育人数の変化と園舎の耐久年数と書いたのですが、もう少し正確に書くと、要は、もっと長時間預かってほしいということだと思うのですね。

もう1つは、園舎は永久にもたないで更新しないといけない。建て替えなければいけないという話もあります。その場合のことをとりあえず3つ考えてみましたが、ほかのご意見があれば言ってください。

まず、「①全ての幼保園を維持した場合」です。これは、事務局に協力いただきましてつくってみました。金額で算出すると、大阪万博の件などご存じのとおり、今試算してもたぶん上がるのです。人もモノも上昇局面ですので、金額を出すことにあまり本質的な意味はないのですが、建築面積と人員は動かないです。法律で決まっているから。これだけの人数を収容するのならこれだけの面積・人員が必要だということは法律で決まっているので。単純に計算してみると、こぼと園を1とした場合、建築コストは6.44、こぼと園の6.4倍の面積が必要になります。

この表では7.44となっていますが、こぼと園は建築済みですので、つくったばかりの建物ですので、こぼと園の1.0を引いた残りの数字になります。

人員コストは、こぼと園を1とした場合、こぼと園の4.17個分ほど要りますという話になります。

次、「②すべての幼保園をこども園とした場合」です。こども園にしたいというのは皆さんの思いだと思います。預かっていただける時間が長くなりますし。ただ、あえて書いていませんが、預かる時間が長くなるということは、それだけ人数が増えるということは自明ですので。ただ、少なくとも現状で人員が不足しているのに、さらに人員を求めることになるので、書いていませんが、すべてこれよりも増えます。

「③こども園をつくり、民営小規模保育園で補強した場合」という私が考えた案です。こども園を求めるニーズがあるのは明らかですが、新しいものをつくろうと思うとそれなりの規模が求められてしまいます。全部こども園にするとものすごくコスト等建築費用が上がる方向にしか行かなくなってしまいますので、現状、維持できていないのに、これ以上きついのを要求しても無理なので、ある程度、こども園の規模を広げざるを得ないのですが、ここの皆さんの議論の中で、いや、少人数でぜひ保育してほしいというニーズがあることも伺っていましたので、もう1つ、私も不登校児でしたので、大人数に馴染めない子には、日野町の中でどこかほかの選択肢がないのかということ、どうかして担保できないかという思いが私にはありましたので、こども園を2つと民間小規模園で補

強するということをあわせて書いてみました。

説明の補足をします。仮にこども園を2つ建てるにしても、新しくできたものを放っておいて新たにつくるというのは効率的ではないので、「こども園 B」についてはこぼと園を増築するという事で床面積を出していただいています。

「民間小規模預かり」に関しては、補助金が得られるそうで、日野町が単独でお金を毎年融通しなければならないというパターンではないのです。ですから、0にしてあります。ただ、ここに含められなかったのは、例えば既存の施設の中で民間小規模預かりをします。そうすると、少しは改修・補修しなければいけないということが発生すると思います。でも、それは毎年同じ金額がかかるタイプのものではないので、それは1年ごとの予算でお願いするという事で、ここは0にしてあります。ということで、一応こういう数字が出たということになります。

小規模預かりというけど、そんなことが実際に可能なかと思われると思うので、そこで千代地区と休屋地区のお話を、公民館でお集まり皆様にしようと思っています。

千代地区の場合、飯田市の考えは、人数が20人を割り込むと合併するか廃園するかという話になるのですが、そうではなくて、地域で法人を設立し、採算がとれなくなったときは市が責任を持って対処するので、地域で経営しませんかという提案をして、その結果、このような地域の選択に至ったということです。

休屋はもっと小規模です。非常に人数が少なくて、未満児が0になってしまって、社会福祉法人としてお金がいただけるものが減ってしまったので、法人が撤退ということになったので、そのあと町内会が運営されることになりました。それに至った経緯と、十和田市が新たに「託児・学童保育支援事業」を策定したのですが、これは完全に休屋地区だけのためにつくったということです。こんなやり方もほかの地域でありましたよという話もしていこうと思っています。

もう1つ、仮にこども園を新設するとしたら、どんなことを考えないといけないか。1つは、子育て層がこれから住めないところにつくると、通園の問題が発生するので、住めるところでないといけない。あと、保育者の皆さんが働きたいと思える環境でない、保育者が集まらないだろうという話があります。今日も話がありましたけれども、保育者ワークの結果、本当に皆さんどんどん新たに家庭支援の増加や、子どもが持つ新たな課題の発生、それに対して加配や待遇の改善など施策は行っているのですけれども、結果として新たな課題の方が圧倒的に多いので、ひたすら現場は疲弊していく状況があるというお話でした。

それから、募集状況がどれほど悲惨なのかという話です。前にもお知らせしましたが、特にフルタイム職員の志願倍率0.06という、目も当てられない数字です。

ということで、こども園を新設すると仮定するのであれば、実現したい保育ができる環境が整っているかということもありますし、地域が受け入れ可能かということがあるのですが、こども園をつくるのだったら必要な条件ということを私が考えてみました。それ

を箇条書きしただけなので、今日は特にここをご議論いただきたいのです。こども園をつくるのだったら、どこに置いてもいいという話ではないと思っています。特に私が気になることをあげさせていただくと、「地域が受け入れ可能であること（子どもの声が騒音扱いされない等）」、日野では子どもの声が騒音扱いされるなんていう、そんな地域ではないと思っていたのですが、全地区で公民館ワークをしたら、既にそういうクレームが入っているというお話をいただきました。新設して、周りからクレームが殺到して、園が本来やろうと思っていることができなくなったら目も当てられないので、こういう条件は必須だと思うのです。

それから、保育士の先生方とお話してすごく感じたところですが、地域に支えられているとか、地域の人たちがみんなあいさつしてくれるとか、本当に日野は素晴らしいですねとおっしゃってくださった方がいる一方で、近くにいい散歩場所がないとか、交通的に危険であるとか、そういう園もあるとお伺いしております。考えると、「地域に出やすい」ということは必須なのではないかと私は思っております。そうではないかも知れないので、ぜひここをご議論いただきたいと思います。

それから、あとは一般的なことだと思いますけれども、当然ながら「土砂災、水害の想定エリアでないこと」「通園、通勤に際し道路交通が極端に危険でないこと」等、一応書いてありますが、私が一番大事だと思っているのは、「周辺に子育て層の転入が可能なこと」「日野町らしい自然を生かした教育・保育が可能なこと」「地域が受け入れ可能であること」の3つであります。ただこれはあくまで私が思いついた条件ですので、ぜひ皆さんからご意見を伺いたいと思っております。

ここまでで皆さんにご意見をお聞きしたいと思えます。まず副委員長、お願いします。

○副委員長

保護者さんと園側とは違うと思うのですが、保護者さんからしたら、京都だったら通園バスがあるかないかというのは大きなポイントだそうです。車をお持ちの方が多ければ、近くにきちんと駐車できるかどうかと、通勤途中、道路交通のこともありますけれども、送ってきやすい場所にあるかということも、保護者さんにはあるということです。「あそこはいいけど、遠いから」とか、「いいけど、行きにくいから」というのは、私が勤めているところも彦根の端っこにありますので、南の端なので、北の方からは来にくいとか言われたりもします。それはどこにあってもあるかも知れませんが。

保育士さんにとっては、すごくしんどい仕事なので、精神的にも身体的にもギリギリ、来てから帰るまでの間はかなり疲れると。休めるところはすごく大事で、保育士さんのための休憩室は、うちはカフェを用意しています。ノンコンタクトタイムでしっかりと休んで、昼からも頑張ると。努力と献身的な思いだけでは仕事はできなくて、疲弊して辞めていかれる方もおられますので。先生たちの元気に働ける環境というのは一番大事なかなと思います。あとは研修機会なども必要な、ざっと思い浮かべるとそんなところかなと思います。

私の園はすごく見学者が多いのですが、保育士さんも保護者さんなのですが、保護者さんも保育士さんも見学して、環境はすごくきっちりされますし、外に散歩に行かなくても園庭の中にいっぱい緑と自然に出会える、すごく工夫してつくってもらったので、そういう環境にすごくびっくりされるのですが、保育士さんはそこにプラス、職員の休憩室がすごくいいなと言われます。

○委員長

ありがとうございます。では、こちらからお願いします。

○委員

日野町は獣害も問題になっているので、緑や自然に近い方がいいということもあるけれども、山が近いとサルがおりてきたり、必佐地区でもサルやイノシシが出たりするので、そこも考えなければいけないかなと思います。

園の中で完結するというのはすごく魅力的だと今のお話を聞いて思ったのですが、やはりいつもと違う日常という意味で散歩も必要なので、交通量が多いところは絶対避けたいかなど。親が連れていきやすい場所、通勤途中にある場所がいいと考えるより、子どものためだったらちょっと離れた静かなところがいいのかなと思います。

○副委員長

そうなんです。自然環境がいいところ、園庭も広いし、木を植えたり、虫がいたりするのですが、外でしかできないことは、地域の人との出会いなんです。私の園は昔ながらの住宅街で、おばあちゃんたちが畑にいたり、花を植えていたり、暮らしが見える。地域の中で生きていく子たちなので、地域の生活が見えるというのがいいと。公園に散歩に行くのではないのです。道中、あれはオクラの花だよとか、散歩でしか学べないことも多いので、気軽に行けること。今日は保育士が少ないから散歩に行けないというのではなくて、裏に出るだけだから保育士が少なくても行けるとか、車が全く通らない道だから大丈夫だとか、ちょっと、すぐに出られるところがあればいいなど。

○委員

質問ですけど、「子ども園を新設すると仮定するなら」ということですが、これは子ども園を「新設する」前提の話し合いになっているのでしょうか。今までなんのために話し合いをしているのか、私の中でよく理解ができなくなりました。

○委員長

あくまで選択肢です。皆さんがすべての幼保園をそのまま維持しろとおっしゃるのだったら、①のシミュレーションで言った話になります。ただ、そのためには皆さんの税負担が発生するという話も当然出てきます。それ以外の選択肢として、こども園を求める声は間違いなくあるので、こども園が現実的にできる案を出さないといけない。それでシミュレーションしてみたらこういうふうになったというだけの話です。全然、「ありき」の話ではないです。選んだらいいと思います。選ぶのは私ではなくてみんなですから、日野町の公民館に行ってその話をしたいのです。

○委員

話の内容的に、今ある既存の施設とは別に新しい土地を見つけて、新しいところに大きく建てるという前提で進んでいる感じがして、それで違和感がありました。理想論はいくらでも言えるし、今までも何度も話してきているから、今ここでその話「新設するのだったら」という「こんなところがいいね」ということを膨らませる段階では無いのではないかという思いが私の中であって、よく分からなくなっています。

希望はいくらでも言えます。当然、お金もかかるものですし、今日野町には新たな土地に、新しい建物を作るというお金はあるのでしょうか。

○委員長

比較したときに、全園を維持するよりは安いです。だから、私は非現実的な提案をしているつもりはございません。これは私が勝手に妄想したのではなくて、事務局と話をしています。どちらかという、こちらの方がつらいです。皆さんが選択するのだったらよく考えて動かないとまずいです。こっちの方が現実性ということであると、負担が、特に人的な負担が下がるので、どちらかという、新設ですけれども、こちらの方が負担的なことだけ見たら可能性が高い。

○委員

だから、「新設するなら、ということを仮定するなら」ということですか。

○委員長

そうです。両方新築というわけではなくて、もう新しい建物があるわけですから、増築した方が安上がりですね。新しくつくりたいと皆さんがおっしゃるのだったらそういう選択肢もありますけれども、安く済ませたいというと、ここの増築と、これは新しくつくるというシミュレーションなので、絵に描いた餅を言っているつもりはもちろんです。

○委員

すみません。この懇話会も1年半過ぎている段階で「今その話なのか」というところがあり、すごく違和感がありました。否定はしませんが、ちょっとよく分からなくなってきました。理想は必要なのは分かっているのですが。

○副委員長

現実につながっていかないと、1年半話をできてということですね。

○委員

そうです。

○副委員長

どこの市町でもこども園化がすごく進んでいるのは、別に園舎を建て替えずにでもできてしまうのです。認可だけの話なんです。ただ、乳児を入れるときは乳児のための部屋の改造と、調理設備をつくらないといけないという問題があったりはしますけれども、保育所がこども園になることは可能で、私立ではこども園にされる場合は多いです。

なぜかという、補助金が全然違うから。私立で保育園を建てるかこども園を建てるかというときに、こども園の方が断然得だよと言われました。コストもだけれども、保護者のニーズとして、これから先どちらがいいのか。こども園のいいところは、今、国の方針を変えてきているので、保育の必要性がなくても園に入れるようにしようとか言っている、この先はわかりませんが、前は、例えばお母さんが仕事を辞めてしまったら、途中退所させられてしまう場合があるのです。それはすごく子どもにとっても気の毒ですし、違う園に、保育所から幼稚園に変わられる。お母さんもまた一から物を用意しないといけないというのもすごく不便であり負担がある。そうなったときに、こども園だったら2号から1号に変わるだけだから、園を変わなくてもいい、担任も変わらない、友だち、園ももちろん変わらないというメリットがあります。

日野町にこども園ができて、どの園が一番いいのかということも含めて考えるということも大事なと思います。ただ、国の方針が、働かなくても保育所に預けていいよということが今決定したのかどうかわかりませんが、現状の維持というのもできるかどうかわかりませんが、老朽化なども考えたときに先のことも考えていかないといけないのではないかと。夢物語ではなくて、実際どうしていかうかという話を言ってくださっているのではないかと思います。

○委員

今の案ではこども園を3つ作るという話ですか？

○委員長

そうではないです、こども園は2つです。

○委員

2つだとしても、今まで5～6園ある園からそこに全て集約することを考えると、すごく交通の便がいいところ・・・道路が広くて、駐車場も広くないと無理ですね。わたしの子どもが通っている第二わらべ園は100人近くの子どものがいて、夕方5時から6時の間はお迎えの時間が集中して駐車場は車でいっぱい停められないこともあります。地域の方は当然とてもうるさいだろうし、近くにアパートの駐車場があるのですがそこに保護者が車を停めてしまうことがあって、カラーコーンを置いたり、先生が対応に苦慮するということが毎年のようにあり、保護者として申し訳ないなと思っています。

2つに絞るということは、日野町では車は絶対条件です。安全確保のため、とても広い道路と駐車場がないといけません。そうでなければ子どもの安全は守れませんし、事故を起こす可能性もあります。第2わらべ園も住宅の真ん中にあるので、結構危なくて、よく事故が起こらないなとも思っています。保育園によってセキュリティには差があります。その点を考えると結構無理が生じてくるかもしれないと思うのと、もしかしたら警備員を雇わなければならないとか、そういう新たな問題にもなるのではないのでしょうか。集約すればするほど人数は増えますし。今後は専業主婦なども少なくなり、国は誰でも預けられるようにもする方針のようなので、ほぼ全ての子どもたちが行く可能性もあ

るわけですね。

あと、もう1つ質問があります。さきほど不登校のことをおっしゃっていましたが、「子ども園を作り、民営小規模預かり園で補強」ということですが、不登校・不登園の子も行ける場として民営小規模預かり園という意味ですか。

○委員長

そこまで深掘りはしていないのですが、ただ、大規模しか選択肢がないというのはしんどいなと思ったのです。

そうすると、小規模のところも選択肢としてあってほしいなと、まだそれくらいのレベルで考えているだけですが、選択肢が大規模だけというのはちょっとという気がしています。

○副委員長

ここがだめでもあちらに行けるといふ場所があるといふのは、すごく子どもたちにも保護者さんにもいいことなので、私もそういうものがあるといふなと思います。

○委員

私は最初の段階から不登校・不登園のことを言わせてもらっています。障がい者関係の仕事をしていたこともあり、そのことも強く言わせてもらってきました。

今、不登校は年々多くなってきていて、2022年の不登校者数が29万人を突破しているという結果も最近出ているところですが、それは30日以上欠席している人の人数なので、30日以内もかなりいると思いますし、当然、保健室登校などは人数に入らない状態で29万人ということなんです。

保育園の場合は、園に行けなくなると、保護者は仕事を辞めているか、祖父母に預けて仕事に行っているパターンが多いのかもしれませんが、滋賀県で幼稚園の不登園の統計が出ているのかどうか分かりませんが、幼稚園の段階で行けなくなっている子どももすごく増えていると感じますし、だから幼稚園に入る子が少なくなっているのではないかという現実もあるかもしれません。

恐らく、教育・保育現場はもう限界が来ている状態です。結局、民営小規模預かり園を作って、その中に不登校専門の教室を作ったとしても、その場に出て来られない子はどうしようもないし、今の幼稚園と同じような場を作って、同じような時間、同じような人たちでやったとしてもまったく意味がないので、その子その子に合わせた対策と、今の幼稚園や小学校のような場ではない場作りが必要になってきます。

日野町には不登校・不登園の幼稚園～低学年の子が行けるところがありません。小学校4年生くらいからでしょうか、適応指導教室という名前です。今出ている新設の問題よりも、今の幼稚園や小学校より、不登校・不登園の子も来やすい、ゆるやかな場を早急に作った方がよいのではとも個人的に思います。保護者の方も切羽詰まっている方もいるだろうし、逆に一人で悩んで相談に来られない方もいるかもしれません。

この間も、保育園から、幼稚園や学校に行けないなどいろいろ問題を抱えていたら相談

に来てください、相談できますよという役場からの案内が入っていましたが、実際にはそれに行ったとしてもありきたりなことしか言われないということもよく聞く話です。相談より何より、とにかく「行ける場」を作って欲しい。もう学校や幼稚園に行ける、行けないとかではなくて、本当の意味で使える「場」が欲しいと子どもも親も思っていますし、わたし自身が今すぐにもそれを作ってほしいという思いです。

○委員長

場が必要だというのは、私も全く同意見です。そもそも相談するというのがどれだけハードルが高いかわかっていづつものなので、そこはもちろん考えるし、今後のこの答申のところにはしっかりと入れて、実効性があるものにしたいと思っています。

なぜこれだけこれに力を入れているかという、我々が答申したものをベースにして次の展開が決まるからです。ありがとうございます。

○委員

何もまとまっていはいないのですが、日野町らしい自然を生かした教育保育が可能などころ、どの保育園・幼稚園を見ても、近くに大きな道もありますし、危険なところは多々あるのですが、やはりそういった危険もありきで、でもそれも学習だし、すべてが安全で守られているよりは、少し守られた安全の中で危ないよという指導もしてあげなければならぬのかなというのも若干思っています。

その中で日野町らしさの「自然が豊かで」と思うと、具体的に私がイメージできるのは、日野町には1本大きな川が流れています。小さな川は南比にも桜谷にも流れていると思うのですが、西大路から日野にかけての日野川が一番大きな川かなと。その近くにこども園があれば、川とも、先ほど言われた災害ということも考えないといけないので、近くにあれば、やはり西大路幼稚園があるところが近くに日野川があつて、なおかつそこまで、交通量も国道が走っているので少しはあるのですが、横に行けば田の中の歩きに行けるコースもあれば、周りにも民家があるので、中道なので町営バスの通りはあるのですが、散歩も可能かなと思っています。

そして、小学校の人数も減少してきているので、そこに対してこども園の園舎を大きくするのがいいか、西大路幼稚園を小規模化として、より自然と親しむような保育の場として残していくのかというのは、今後議論していけばいいのかなと思うのですが、立地条件的には、私はあそこが意外といいのではないかなと。横に公民館もあつて、いろいろところが集中しているところで、立地条件的にはいいのかなと考えてはいました。

あと、最初の公民館ワークというところの、課題をどういうふうに地域住民の方に伝えていくかというところで、Uターンの可能性がある人をどうしていくのかというよりは、これだけ西大路や南比・桜谷、少しずつ人口減になってきているところに対して、本当に存続していく気はあるのかというところを問わなければならないというところは思っています。

その中で、やはりここは大事だと言うのだったら、じゃあ、どうするのか。子どもたち

に対して、先ほど委員長が言っておられたみたいに、マイナス、ネガティブな発言をしていないか。子どもたちがここに住んで楽しい、頑張ろう、大人になってもここに住み続けたいと思えるような家庭教育をしていますかというところも問わなければならないし、大人としてこの地域に魅力を感じていますかというところも再認識してもらわないと難しいのかなと思います。

そういったところを公民館ワークでちょっと熱を帯びた話ができると、地域住民ももう少し、「本腰入れないとあかん」とか「俺らのところは自分たちで守らないとあかん」という思いが、研修に行かせてもらっていてもその熱意がすごくて、それが子どもにも伝わっているということを感じたので、そこをもう一度地域住民の方々に問いたいというか、もう一度再認識してもらいたいというところは思います。

こども園の新設に関してというよりは、公民館ワークで問いたいところということに焦点を当ててしまったのですけれども。

○委員長

ありがとうございます。私もそういうところをいかに伝えるかということでしたき台を作ってきました。思いは一緒でございます。

○委員

なかなか難しいのですけれども、どういうふうに伝えるか、熱を持ってもらうためにどう伝えてあげるのがいいのかなというのが、問いかけ方というか、そこがなかなかいい言葉が出てこないから、直球の言葉になってしまって、そんな感じです。

○委員長

また思いついたら教えてください。ありがとうございます。

○委員

いろいろな先進地といわれるところを見てこられた経過というのが前回もあったと思いますけれども、聞かせていただいて、確かに日野町も少子化の課題がありますし、よその市町もそこを起因した部分でどのようにしていくかというところを課題にされているので、子どもがいなくなったら、それこそこの検討会議が全然不必要なものになってしまうので、そこをどうするかということは当然必要な部分かなと思いますが、さっと見させていただいた中で、少子化という部分にフォーカスしてこの検討会を進めていくという部分がメインになるのとは少し違うのかなという部分を私は感じました。

日野町で少なくなってきたけども、その子どもたちがどのように健やかに育っていくかというところを地域全体で考えていくために何ができるかという部分を、昨年度、ワークショップをされてその中でいろいろな意見が出てきた部分を今年度に反映して考えていくという形かなというふうに思いますので、その部分を、いろいろな意見が出ましたよね、それなら次はそれを活かして今ある部分をどのように進めていく必要があるのか。たくさん小さな園があるのをそのまま残していくのがいいのかというふうなところに、今回もコスト面の部分が出ているので、最終的に私も行政の一員なのでその辺はかなり

課題かなとは思うのですけれども、それも大事ですが、子どもたちを向いて考えるならば、そこは最終的にやってみていろいろな意見をもらった中でコスト面を考えたら、もうちょっと数を絞るとか、そういうふうなことも考えないといけないという結論みたいな形に持っていければ一番いいのかなという思いをするので、昨年の意見があつて、先進地の事例でよいところを取って、今委員がおっしゃったような、地域の中で小規模の園をどうしていくかというふうなところの議論が、地域の方へもう一度入るといふことでしゃべっていただければ、皆様のご意見をいただければいいのではないかと思います。

○委員長

私は少子化だけにターゲットを当てたいわけではないのですが、どうしても存続を考えると、入園者数の話をしないわけにはいけないというだけです。少子化の話をしに行くわけではないので、それは気を付けてするようにいたします。ありがとうございます。

○委員

それぞれの園でも一人ひとりの発達の年齢に応じた発達の状況を把握しながら、一人ひとりの子どもに寄り添いながら、安全を一番に考えて保育を進めているというところで、保育者ワークの中でもいろいろな意見が出ているように、今、家庭支援を必要とすご家庭が、発達支援で個別に対応を必要とするお子さんがおられたり、いろいろな課題が生じてくると、きちんと書類を整えていかないといけないというような、そういうような求められることもどんどん、どんどん増えてきて、書類に追われる、時間がないというような保育者の現状は本当にあります。

先ほど副委員長が言ってくださったように、出勤してから退勤するまで、一日中緊張した中で仕事をする中で、ちょっとした、ホッとできる休憩場所の整備というのは本当に必要なことだと思うところですし、クラスを1人で運営していくということがこの頃は少なくなってきています。複数名の保育者が1つのクラスを運営していくということで、その連携をしっかりと取っていくということの必要性が出てきているので、しっかり情報共有をしたり、一人ひとりの子どもさんにどのようにかかわっていくかというようなことを話し合っていく時間の確保をしていくことが必要ですし、そういう課題も出てきています。

その中でやはり、保育者が一番心を、悩んでいるというか、実現できないことに苦悩しているというところで、自分たちが実現したい保育ができない、なかなか時間がない、もうちょっとこの辺で連携したいけど、そうやってみんなが集まれる時間が確保できないというような、実現したい保育がなかなか実現していけないというところが、本当に私も近いところにおいて、一人ひとりの先生方が苦悩しておられるような現状を感じております。そのあたりでやはり何とか、職員の体制も整備していく必要があるなということも感じますし、職員も、学年1人の担任になってくると、そこをどうやって保育の工夫をしていったらいいかという部分でひとり悩んでしまうところが多くなってしまふのです。

今、日野幼稚園は4歳と5歳は2クラスずつ分園をしてもらっておりますので、そのあ

たり、2クラスの職員がいろいろ日常的な保育のことを話すこと自体がとても大事になっていると思うので、そのあたりで私が感じるのは、職員もある一定の体制を整えていくということが必要だなと思いますし、若い先生が入ってこられても、同じ年代の職員がいないと、なかなか自分が今悩んでいることを相談したりということが難しい状況になってくるので、ある程度の年齢というものの確保もしていくということが必要になってくるのかなと思っています。

もちろん子どもも、指示を受けたりとか、保育者の話を聞いて活動を進めていくのではなくて、自分で周りの環境や友だちがしている遊びを見ながら、自分でこういうことがしたいとか、こういうことをしないといけないなということを自分で感じていきながら、体験を通して学んでいくということがとても大事になってくると思うので、そのあたりもやはり学び合える子どもたちの環境整備をしていくということも必要かなと感じているところです。

先ほども言ってくくださったように、相談できる場というのはとても大事だと思います。ここ数日、欠席の電話を受けていまして、ちょっと子どもが今日朝から行きたくないというんですというようなお母さんからの相談があったりして、そういうところで電話に出た職員が、対応はさせていただいているものの、それが十分できているかどうかというと、まだ不十分なところもあるのかなと感じるところもあります。そこで幼児教育センター、相談に乗ってくださるOBの先生方が園の中にいてくださると、時間的にもその方が対応してくださったりすることができると思うので、今もう園の中は結構時間的にもゆとりがなくて、そういうご相談にゆったりと対応できる職員の確保というものがなかなかできていないのが現状です。そのあたりの体制もできることなら整えていきたい。それはやはり保護者さん支援にもなっていくと思うので、そのあたりも考えていけたらいいなと感じています。

○委員長

2つ質問させてください。「学び合える環境を整備」とおっしゃったのは、子どもが学び合える方か、保育者なのか、どちらですか。

○委員

保育者も子どもも、両方です。

○委員長

もう1つ、職員の体制の整備というのは、人間的なことやそれ以外のことも全部含めておっしゃっているのですよね。

○委員

そうですね。

○委員長

はい、わかりました。ありがとうございます。

○委員

質問させていただきます。やりたい保育ができないことがしんどいとおっしゃっておられて、その根本的なところは時間が無いからということですか。そもそも「時間」なのか、もしくは「なかなか一人の思いを発信して保育を実現する環境が難しい」のか。

○委員

自分がこうしたいとか、こういうふうを考えていますという意見を、園の中で、職員で揉みながら、そうしたらこういうふうにはできるのではないかというような事例を出しながらという「事例研究」などというのは、一定させていただいているところもあります。私のところは幼稚園なので比較的時間を取らせていただくということができているので、その中で、そういう一人ひとりの意見が出しやすいような雰囲気をつくっていくのは私たちの仕事かなと思っているのですけれども、それも整える必要はあると思うのですけれども、根本的にはやはり時間だと思います。研修に行きたいけれども、今日はこういう体制なので行ってもらうことはできないとか、そういうことも実際あるのです。

○委員長

少し補足させていただくと、時間がなくなる理由はこの辺（資料を見て）ものすごく反省しています。これは100名の保育士に尋ねた結果なのです。

あと、人が足りている園の話でいうと、園庭・園舎の場所によって激しく違いまして、ものすごくスペースが余っているところもあれば、ものすごく狭いところもあって、例えば狭いところではこういう話が出てきます。本来だったらこういうふうに遊ばせたいのだけれども、狭くてできないとか、散歩に行かせたいけど、そんな場所はないとか、方向はこれなんですけれども、それだけではないということは補足させていただきました。

○委員

私も質問があって、先生が出してくれた建築コストと人員コストは、母数というか、対比しているのは、今の将来推計も含めた日野町の対象となる幼保育児から算出されたものですか。今の実際に園に登園されている方から割り出してかえしている、担保する、子どもの数は一定数あって、この園の規模とか人員は担保されてくると思うのですけど、定員いっぱい、いっぱいなんですか。

○委員長

現状のものをそのまま。

○委員

現状で、今年の令和5年度に今現在通園されている方々を母数としてこれが出てきたということですか。そうでないと、これは何を基準に将来推計、今年の数ベースに園舎の、要は、全部法律で決まっていると思うので、どこかから割りかえしてきたのだと思うのです。それが今の子どもたちの数ということですか、待機児童の数も含めて。

○こども支援課長

今見ていただいている、前回の資料の補足資料に、法定数どれだけの子どもに対して保

育者はどれだけ必要かということを基準にしています。

○委員

わかりました。ありがとうございます。

○委員長

1つ補足させていただくと、これだとあふれる可能性もあります。その場合はどうするのかという議論は別に必要ですけれど、とりあえず2つは要るだろうということから、単純に求められる面積と人数を出しています。

○委員

わかりました。ありがとうございます。

まず、私は思いはいろいろあるのですけれども、これは今の私立園のわらべ保育園も入っているのですか。この園舎の中には入っていないのですか。

○委員長

これはあくまでも公立ですね。

○委員

この議論をするときに、結局、日野町という2万人規模のまちで、わらべ保育園がある中で、今、第1と第2を合わせて160人くらいが登園しているという、町内の中でも大きなシェアを占めている中で、そこが全く入ってきてない数字があるということは整理をきちんとしないといけないと思います。

これは公立の中での話ですよ。私立は私立でまた独自でと、たぶん形式が違うのでしようけれども、まずそれが一般の保護者から見たらすごくわかりにくいというか、私立園は入っていないのですと言われても、日野町の保育をどうしていくのかということになると、子どもたち全部が対象なわけで、そこは置いておいてというのはおかしいのではないかな。私たち委員の中にもわらべ園に通わせている人が何人かいますし、結構な数がいるわけで、公立園の中だけでの話ですよというところが果たして本当に住民ニーズに合っているのかというところは、私もよくわからないのです。

○委員長

これがお願いしたのは私なので、私からお願いして数字を出してもらっているのです。その辺に対する責任は私にあります。

これは税金的にどういうコストがかかるのかということを思って公立だけでまとめたのですけれども、これに私立を加えてしまうと、そこがわかりにくくなると思って落としたのですけれども、入れた方がいいですか。

○委員

人数比率的にも、パーセンテージでいくと、結構それなりのパーセンテージがいるのと違うかなと、幼稚園も保育園と。そうしたら規模感が変わってきてしまうかなと思って、こちらはこちらの話で7割の話をしていて、あと3割はそれはそれでという話になってくるのか。それはそれでよいのであれば、答申としてもそれで出るのかなと思ったりする

ので、今ある現状の公立園をどうしていこうかという議論になると思うのですが、そうですね、ここからしか割り返してこれらないというのは仕方ないのですが、先ほど副委員長がおっしゃっておられた、公立も私立もかなり連携をして、まちとしてどうしていくのかということのを会議で連帯するということもこれから大事になってくるのではないかと。それは舞鶴市もされていると。日野がそれを徹底的にやるのかどうかということも大きく関わってくると思うので、そこを今すぐどうこうではないですけども、これはその算出ということで確認はさせていただきたいと思うのですが、どうもずっと議論の中で、表にするとそれなりの園児数が私立園にもいる中で、その話があまり入ってこないとか、数字の上でも。だからそこは数字の上でも入ってくるようなわかりやすさがあると、もう少し議論が全体的に進むのかなと思うのが1つです。

あとは「子ども誰でも通園制度」が今、9月21日初会合で2024年本格実施みたいな話で進んでいるのですが、どこまで保護者のニーズに応え続けるのかということ、これは保育指針にかかわると思うので、決めないとサービス業みたいに永遠にニーズに寄り添い続けると、2040年には1,100万人労働人口が足りなくなるという試算も出ているので、先生はいないのです。保育士さんも人間的にいない。AIなどで代替できる職業ではないので、工業界とは違う話ですね。まずやはり人の確保をどうしていくのかということにすごく力を入れているまちですよとか、何かコンセプトがないと、それも大事です、こちら大事ですよとかいうことになると、結局、日野町は何に特化してやるのかということが私も今見えていない。いくら良い園をつくって環境を整えても、働き手の確保にこれから困ることが出てきている中で、子どもに対しての補助金は増えてくると思うのですが、実際に働いてくれる人がいないのに、どうするのか、そのニーズに応えてという議論が大きくあるのですが、そこも、こども園化して幅広くして、個別でフレックス的に預かりますよということになってしまうと、もっと人が要るようになるので。出入りが激しくなるので、もっとフレックスで働いてもらうということは、母数が多くてそこに入り乱れて入ってもらうということになるので、今度は保育の質の話になってくると思うのです。預かるというふうなところはもう1回考えるといって、ベースが公立を重視して、住民ニーズに応えないといけないというところで、日野町としてどこを指針に子どもたちを育てていくのかということがないと、あるのですが、やはりないので、保育士さんも幼稚園の先生も、こういうふうにできたらいいのになということが実現できない職場というところが、一番、離職率とか定着しない大きな理由かなと思うので、まずは職員さん、専門的な知識が必要な部分と、そうでもなくて助けられるような、地域が支えられるようなところ、小学校ではコミュニティスクールがこれから始まっていますけれども、そういうふうな感覚で考えないと、そこからどこの地域に置くのかということがかえってくるので、用地とか面積とかは比較的融通は効くと思うのですよ。条件に合ってくる場所しか建てられないので、法律的にも。けれども、その運営をしようとしたときに、千代地区とか飯田市とか十和田区とか、がっちり地域密着でされているのです。

れども、そういうふうな形式を本当に日野でできるのかなという思いを、私は、規模とがもう少し大きくなってしまふのかなと思っているので、コスト的に考えると、いくつも小さいものをつくると、どうしても1つずつのコストはかかってくるので、どちらかというところ、コスト的に言うと大きなものところに集まってきてもらうという方が、ただニーズは度外視にしてなので、保育ニーズというところがもう一度どこにあるのかというのと、このまま国に準じてやっていって、それでいいのかなというところも、支える方が負けるのではないかと思います。一気に崩れてしまうと子どもたちにも関わりますし、なんかこの理想を私もまだよくわかってない中で、今の日野町の課題がどこなんだというところがもうひとつ迷ってしまうところがあるので。

○委員長

今の話を前提にすると、この資料自体がそもそもだめだということですか。

○委員

いや、そういうわけでは無いと思います。

○委員長

もっと大局に立った話をすべきだという話ではないですか。保育ニーズにどこまで応えるのかとか、そういった前段の話し合いがなしに具体論に入っている、それも公立に関してのみ書いているからよくないという話ですか。それならそれで私も資料をつくり直すと思います。

○副委員長

その答えを持っている人って、いないですよ。

○委員長

でも、私はやはり委員に対して最大限応える責務がありますので、求められるのであれば、私は精一杯仕事をしないといけない立ち位置です。

○委員

今のこれでいくと、話としては公立園に今いる子どもたちの規模で考えたときに、日野町はどうしようかという議論ですね、数的には。

○委員長

コストの話のベースにしているのが、公立を中心にまとめました。

○委員

ただ、次の理想に行くときには、公立・私立というのは関係なく理想論に近づいていくと思うので、そうですね。今、特に公立と私立でどちらがいいとか悪いのかという議論は日野町の中にはあまりないと私は思うので、歳出のときにはそれが入ってなくて、理想としたときには、わらべ園（私立）も入れていこうということになると、どこかでずれが生じてくるかなと思ったりするのです。私立がコストに入れられるのかということは、私立なので経営方針もあります。

○委員

保護者目線からお伝えすると、日野町は私立も公立も関係なくて、10月に役場で募集をかけます。第一希望から第三希望まで聞いてくれるわけですが、第一希望に私立のわらべ保育園を書いても多くの人が入れないのが現実です。わらべ園や第二わらべ園は希望を出しても奇跡的に入れるか、という感じでしょうか。保護者にすれば保育料は基本的に一緒ですし、最初はどこに入れるか分かりませんので、結局のところ、日野町において公立私立は関係ないように思います。

○委員長

今の見せ方ではだめなんだろうなというふうに認識したので、見せ方は変えないとだめだと思います。

○委員

地域に説明をしてもらうときに、ここの場であればそうだなというところで納得できるのですが、例えば公民館へ行ったときに、わらべ園はどうなるのかという話が地域から出てきたときに、第2わらべは特に大窪（街中）なので、地域住民さんとはいろいろあると思うんです。それは致し方なくて、いろいろな制約の中で第2わらべが建ったので致し方ないところはあるのですが、そういう部分で私立として助かっている部分はあるような、あれ、公立だと安全面的にはなかなか厳しいところもあるのかなと。

私はわらべの立ち位置というのも、日野町の中でこれから行政と連携してというところは、実際、理事長というか園長も、日野町全体の子どもたちを見たときにこれからどう考えていくかということ町全体で議論しないといけないというふうに、譲歩していると言ったらあれですけど、そういうふうな裾野を、今までは結構行政にいろいろ指摘をしたり、方針のところでもいろいろなことをされてきたのですけれども、やはり日野町全体がこんな状況なので、日野町全体で公立も私立も一緒になって日野町の子どもたちをどうしようかと考えるときだなというふうに毎日会うので話をされていると、こういう議論の中にそれも含めて議論をしないと、地域に降ろした時に、公立とか私立とか聞かれたときに、これは公立なのでコストを合わせているんだと言っても、一地域住民さんからすると難しいのかなと思って、公民館ワークで引き上げたいときにどうしても公立前提になってしまうということが、今の時代と合っていないのかなというところは実際、舞鶴市だとそういう議論なのか、分けて議論しているのか、一緒にしてある程度歳出コストを細かいところまでしっかり分析しているのかというのは今わからないのですけれども、どちらかというところ、一保護者目線で、園の統合とかいろいろするのにしても、何か説得材料が大きくないと、たぶん園の統合をするというのはものすごく大きな問題に保護者からするとなると思う。その最初の時点で、もし、難しいかもしれないですが、その別コストみたいなところで、かっこ書きで入っていたりしても、わかりやすいのかなと思います。

○委員長

とりあえず、民間も全部含めた形で検討し直します。

ただ、もう1つの、そもそもすべての保育ニーズを拾うべきなのかとか、人の確保の話であるとかは大きなテーマなので、それはどう含めるのかというのは今、私の中で即答できないところではあるのですが、よろしいでしょうか。

○委員

国に準じていくのか、日野町独自で何かつくるのかというところも岐路に立っているのかなと思っていて、国の補助金などもおりてくるのでどうしてもそういう方向に行くのは致し方ないのですが、それとは違うところで独自の施策を出されているところが注目をされているところなのかなと。結果、国から補助金をもらっておられるのですが、見せ方がうまいのかなと思うので、大きな議論は今から一からというのは時期的にも難しいと思うのですが、保育ニーズが高まって、しかも「子ども誰でも通園制度」みたいなものが出てきたら、どういう理由で子どもを預けないといけない状況にある方が預けるための施設であって、これは正直、親というところの定義にも結構かかわってくるかなという議論になってきますよね、この子ども誰でも通園って、結局、誰が第一義的責任があるかといったら、基本的に法律的には親なので、そこがすごく曖昧になってくるのですよ、これから先の世界。どんどん、今後は0歳、生まれたときから預かりましょうかという話になってきても、国が言ったら町もそうしないといけないという形になると、永遠、人はいない、全部預かれというのが、ここ何十年かのサービス業などが一旦崩壊してしまった理由の大きなところだったので、保育業界が同じようになってしまうと、私は違うかなと思うので、そこはくぎを刺すというか、そういったことも一方ではあると。何でもかんでも、こういう保育ニーズが出てきたから、日野町で全部受けていこうということになると、行政とか受ける側が絶対負けるので、人数的に負けるので、その中で、それも1つあるけれども、日野町の方針としてはこういうものが、子育て宣言とか言いませんけど、大きくドーンと出すようなものが何かあればいいなと思うのですが。

○委員長

再度考え直します。指摘していただけるのは一番いいことなので。組み方、課題の出し方も再検討してみます。

やる前にまた、もう1回この会を開くのは無理だと思うので、皆さんに情報提供させていただきますので、気になったところを指摘していただくという形でいかがでしょうか。

○委員

結局、こういう議論は今後必要になってくるということですね。

○委員長

それをどういう軸でやるかということ全体に置いておかないと、無限にニーズに応じていくという話になってしまうからという話で、私の資料は、課題でそこをさらっと流してしまっているのです。だからそれが、確かに今のお話でいうと、この書き方がよくないので、それはつくり変えます。ただ、それをどうするのかと公民館の皆さんに聞くのはつらいので、ただ、すべてのことに応じていくのかとか、日野町はそもそもどういう方向

を向いているのかというところに関してちゃんと説明したうえでこの話に入らないといけ
ない。それともう1つは、これだけだと公設しか見てないように見えるから、民営の方
が視覚的にわかるようにする。その2点を直させていただきます。

私はネガティブに受け取っているのではなくて、よくするために皆さんが言ってくだ
さっているという認識なので、変えますというのはネガティブに言っているつもりはな
いんです。ありがとうございます。

○委員

何も言うことはないぐらいなんですけど、この資料からいくと、地域の受け入れとか、
子どもの声が騒音扱いされていると。それは昔からあると思うのですが、そういう声を
大きく言う人も、昔うるさかったと思うのです。その人は保育園のときから静かだったわ
けではないと思うので、うるさい時期はあったと思うのです。他人事と自分事と分けて考
えてしまっているだけだと思うので、そこにそんなに考えなくてもいいのかなと。わかっ
てもらふ必要はあると思うのですけれど、ある程度説明して、子どものためにといいて、
我慢してもらふところはあるのかなと思っています。

あと、「寄り添う」ということが先ほどあったのですけれども、この言葉もずっと昔か
らあると思うのですよ。言葉を選ばずに言うと、子ども一人ひとりの個性も違うし、成長
していくスピードも違うでしょうけど、たぶんどこまでいっても100%は難しいと思うの
です。ただ、子どもたちもできる限り精一杯頑張っ、追いつくではないですけれども、
頑張ってもらふ。大人の保育者の方も頑張っその子たちに寄り添っていくというのが、
限界じゃないですけど、そういうところに落ち着くのかなと聞かせてもらって感じ
ました。

すべてにおいて時間がかかると思うのです。言っすぐできるものではないし、この会
議から何か動いていくのだと思うのですが、仕事でいうと、トライアンドエラーという
か、何かに挑戦して、失敗して、微調整してまた挑戦するということがあるのですけれど、
母体が大きかったり、船が大きかったりするとなかなか舵取りは難しいと思うのですけ
ど、だったらこうしてみたらという気持ちでやっていけたらいいのではないかと。先ほど
も先生が、ネガティブには考えていないとおっしゃっていたのですが、そういうふう
にお考えいただけるならいいのかなと思いました。

○委員長

たぶん、お互いにできることをやることだと思うのです、子どもにしても、親にしても。
頑張るということは結構つらいところがあっ、できることから手をつけていくみたい
なものなのかなと思っながら、聞かせていただっいました。ありがとうございます。

○委員

色々聞かせていただきまして、頭の中がごちゃごちゃになっしまっ、余計にまとま
らなくなっしまっしたのですが、感想だけ申し上げます。

あおぞら園が建っ時、送迎のしやすいところがいいだろうということでした。当時、

私の子どもは小学生で桜谷小学校へ行っていたのですけれども、裏山がすごく魅力的なんです。休み時間になったらみんな子どもは裏山へ行っていた。自然に触れて、いろいろあるし、すごく裏山っていいなと思っていて、その時に、あおぞら園を建てる時に、今は資料館が建っている日野町の土地があるのですけど、あそこも候補にあがっていたのですけど、やはり最終的には保護者の送り迎えがしやすいところがいいだろうということになって、東中学校跡のところはまだ何も建ってなかったんで、そこに建てられたのです。

あおぞら園は先にあおぞら園が建ったのですけれども、わらべ園の場合はあとから建ったところなので、やはり地元の人にとって子どもの声というのは、私たちは気にならないのですけれども、気になる人は、トーンも高いし、毎日のことですし、うるさいのかなあとと思うところもあるのです。そして、あそこはアパートのようなものが建っていて、夜勤で昼間に睡眠をとられる方がいらっしゃる。その方にとっては仕方ないのかなと思うのです。ですから、いろいろ問題もあると思うのですけれども、だからどうしたらいいのかは私もわからないのですけれども、そういうことがあります。

今、いろいろなことが情報として入ってくるのですけれども、うわべだけの情報で申し訳ないのですけれども、保育所に行っておられない方で、公民館単位でサロンをしていますけれども、公民館で大きく差があるのです。お年寄りがすごく頑張っておられるところは、公民館活動も魅力的な内容があるのです。この前、視察に行かれた園のお話を聞きましたけれども、80歳の方が現役で頑張っておられると、すごいなと、ずっと頭に残っているのですけれども、このあたりの方は遠慮されるから、若い人でも世代交代みたいなことを言われる方もおられますけれども、そうではないんだと聞いてうれしいです。

そういうことをどこから発信していったらいいのかわからないのですけれども、公民館によっても違うので、サロンのことで聞いたことがあるのですけれども、サロンのこと自体を公民館自体があまりよく思っていないとか、自覚してないという公民館もあるのです。公民館でワークをしていただくのだったら、公民館の指導とか、研修とか、何とか協力してもらえるように、サロンのことを言っても門前払いのところもありますので、公民館はみんなが気軽に集まれる場所ではないのかと思うのですけれども、方向性とか、違うところを重視されているところもあるので、ちょっと困ったなと思ったりします。

4か月健診や10か月健診でも外国人の方も多くなってきていますし、実際、一人親世帯の方も多くなってきていますし、いろいろな問題があるのですけれども、なぜ来たのかと聞いたら、安かったから来たという感じの人があるみたいで、やはり来ては見たけれども、便利が悪い、どこも行けない、子どもを連れていけないということがあるみたいで、日野町内には「チョイソコ」という、交通の利便の悪いところでのタクシーみたいなものができたのですが、その「チョイソコ」にも来てもらえない桜谷には「おたすけカゴヤ」という制度が今はできたのです。ある程度の年齢の方が頑張ってくださいているのです

けれども、対象は高齢者なんです。そういうものをもっと子育て世帯も利用できるようにしてもらえたらどうかなと日頃から考えていたのです。移住してこられた中にも、自転車しか乗れないということもあるのです。そういう人が利用できたらいいなど。

交通のことで思い出したことがあるのですけれども、中学生も全部バス通学というところがあったことを読んだことがあって、日野町もこれだけ広いところですからね。

○委員長

すみません、交通のことまではちょっと。

○委員

交通の便がよくなったら、移住者も困らないし、安いし、交通の便はいいしということだったら、住みよい日野町になるのではないかと。

○委員長

保護者ワークをしていた時に、足がもっと確保できて、子どもが子ども自身で友だちと遊びに行けるようになったら全然違うという話は何度も出てきました。それは切実な話で、子ども同士で遊びたいけど、全部親が送迎しないといけないので、それがしんどいという話がありました。

日野町では「わたむき自動車プロジェクト」などもされているので、何らかの形で対策いただけたらと思います。

○委員

先ほど公民館でという話があったのですけど、他の市には児童館というのがあります。小学校と幼稚園が切れず、0歳から小学校終わりだったか、中学校終わりだったか、まとめて児童館という形で、誰でも来てもいいよ、誰でも相談に乗るよ、遊び場を提供するよということをやっておられて、そこがこども支援センターとつながっておられて、それが各小学校区にあるのですね。そういうふうな形で、日野町も意外と目指せるのではないかと。

学童があったり、公民館は実際に栗東市もあるのですよ、プラスアルファ児童館があって、そういう仕組みがある。公民館に全部丸投げではなくて、そういったところが独立するのか、公民館の中に併設するのか、コスト面もあるのでそういったところも考えると、0歳からしっかりと義務教育終了段階くらいまでを網羅できるような関係機関が1つあった方がいいのかなというのは、この間、市の方と話をする中で、すごくいい取り組みをされているなということを書いて、いいなと感じたので、全部公民館に丸投げすると、公民館もいろいろなことをやらなければならない一方、専門外のところも取り組むことになると難しさも出てくるのかなと思うので、そういった取り組みも1ついいのかなと思いました。

○委員

児童館というものは、滋賀県にはないのですか。

○委員

大津市や栗東市などあると思います。

○委員

私は○○出身ですけど、児童館は各地に絶対あるもので、昔は、小学校低学年くらいまではそこに子どもだけに行くということは当たり前だったのです。たぶん少子化かいろいろな流れで、児童館がだんだん減ってしまっていて、最終的に県に1つか2つあるかどうかみたいな状態になったということですけど、滋賀県は児童館という文化というか、そういうものはないのですか。

○委員長

市町村によって分かれていると思います。

○委員

日野町には児童館というのはいまもなかったのですか。それが不思議で。

○委員

東桜谷の公民館は一時、学校帰りに遊びに寄ってもいいというふうな時期があったように聞いているのです。今はもうそういうことはないみたいですけど。

○委員長

40年代から50年代にかけて、ベビーブームに合わせて一気に増えていって、そこからあとは横ばいなんだそうです。ただ、比率としては公営が減ってきて民間になっています。

○委員

県外にはすごく良い児童館がありますね。室内も無料、駐車場代しか必要ないというような、そんな施設が日野にもあればいいのにと思ったりもしますが。日野町は児童館という文化はないということですね。

○委員長

私の生まれ育ったところは児童館が近くになくて、隣町に行っていた。

○委員

そうですね、児童館といたら、小学校低学年くらいまではみんなで自転車に乗っていくというイメージがあって、そこがちょっとした本も借りたり、うちの地区では隣にプールがあって入れたり、そういうことをしていました。そういうものが例えば松尾公園あたりにあったら、不登校の子の居場所などもあったらいいというのは、かねてから思っていました。

○委員

私がこの話をしたのは、先ほどの○○委員の話につながってくるんですけど、他市では児童館でいろんな側面を見る、その中で、この家庭は大丈夫かな、不登校になってきている、大丈夫かなというところまでそこで網羅されているのです。

そうすると、私も学校現場にいるんですけど、学校現場の職員がその家庭支援まで手を出してしまうと、どうしても自分が今やらなければならないことが疎かになってしまうのです。今、学校やいろいろなところに求められているニーズが結構高くて、でも、これ

は本当にこの場所が網羅しなければならないことなのかというところが、業務過多になっている、時間に追われているということにつながってきているかなと思うのです。

そういうふうな、町とか民間とかいろいろなところの目があって、いろいろな形で支えるところがあれば、もう少し学校現場・保育現場の業務が軽減されて、そのつながりができてくると、「あの子のことが気になる」と言えば、パッと違う人が行って支援や手助けができたというところにもつながってくるのではないかな。今、全部の聞き取りは現場で、その支援も現場で、どうしていこうかということも現場で、そこまで現場に求められると、先ほどいわれた「今やりたいことが疎かになる」のかなというところがあると思います。

○委員長

役割分担の話は確かにずっと出ている話題で、家庭支援面が非常に現場としてはきついという話も言われてはいたので、でも、私も児童館文化で育ったので、確におっしゃるとおりですね。

子育てを支援するものに対してどうするのかというのは、日野にとっても課題なので、選択肢の1つとして挙げられるのかなと思います。ありがとうございます。

というところで、気がついたら時間が来てしまいましたので、まとめに入らないといけないのですが、まず、積み残していることとしては、子育て層というか、若い人向けにお話を伺う機会をどうつくりかという話で、この場で発言いただいてもいいですし、こんなアイデアがあるよということがあれば、また事務局に教えていただくという形でもよろしいでしょうか。

何か、私は回数とか時間とか、こうしなければいけないということは持ってないのですが、どうあったら集まりやすいのかが、いまいまいちわからないので、そのあたりアイデアがありましたら、ぜひお寄せいただければと思います。

~~~~~

### ○委員長

最後に、その他事項ということで、皆様から何かありますでしょうか。よろしいですか。

では、今日は本当に活発に議論をいただきまして、ありがとうございます。こうして言っただけなのが私にとっての幸せでございまして、何も言われなくなったら最後だと思っておりますので、本当にありがとうございます。

今日のお話を受けて、よりよくしたものを事前に皆さんにお送りさせていただきますので、また気づいた点があったら何なりとおっしゃっていただければと思います。

では、事務局にお返しします。

### ○子ども支援課長

公民館ワークショップの日程はお配りさせていただいた用紙のとおりです。公民館と先生の都合で日を決めさせていただきました。前回同様の夜の開催になりますので、なかなか出にくいとは思いますが、昨年、受付で住所を書いていた方には直

接案内をさせていただこうとは思っております。

聞いた形をお返しする場でもあり、またさらに進んだ議論を、先ほどの様々な意見を踏まえて、地域でどのようにしていけばよいかということ、貴重な機会ですのでたくさんの方に来ていただきたいのですが、呼びかけとしては各区長会を通じたルートしか、公民館のいろいろなネットワークで広げていくというような作業になりますので、新たな方の開拓までなかなかいけないのですけれども、また皆様方にもご協力いただいて、より地域の中で見えてくる課題など、いろいろな方に聞いてもらうような形でまた呼びかけもしていただきたいと思っております。それぞれの皆さんの持つおられるネットワークで、多くの方に来ていただけるようにできればなと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

託児については、昨年は日野公民館を1つの中心公民館として託児をさせていただきましたので、今年もご意見を聞かせていただいて、やるとすれば日野公民館で託児という形でご案内をしたいと思っております。

**○委員長**

ぜひよろしくお願い致します。それでは、ありがとうございました。

~~~~~

(閉会)